



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町1-2-12 エイワンビル2階
- ◆会長 / 掛川 興太郎 ◆副会長 / 小池 平一郎
- ◆幹事 / 矢島 栄一 ◆クラブ広報・情報委員長 / 中河 邦忠

2016~2017年度

国際ロータリーのテーマ

NO. 1352 平成29年2月7日

◆点鐘	掛川 興太郎 会長
◆SAA	橋詰 希望 委員長
◆ソング	君が代・誕生日の歌

◆誕生祝

黒田説成会員・前田博志会員・青松英和会員

◆結婚祝

矢島栄一会員・まゆみ夫人

◆皆勤祝

渡辺頼雄会員(17)・矢島栄一会員(9)

【会長挨拶】 掛川 興太郎 会長

「2月3日の節分も終わり、立春も過ぎ、なんとなく、陽気は寒くても、日差しは日増しに春はすぐ近くにいる感じがします。

最近、日本人として知っておきたい「世界激変」の行方という本を読みました。「トランプ、プーチン、習近平」の三人が勢ぞろいした世界は、これからどんな方向へ向かうのか？という文言につられて買いました。

その中で、トランプ大統領の誕生、そして英国のEU離脱、中国、ロシアで強まる覇権主義的な動き。これら背景には、「グローバリズムの終焉」という大きな潮流があると、作者《中西輝政》氏はいう。冷戦終結後、アメリカ極体制下でグローバリゼーションが進んだ。だがアメリカは、イラク戦争やリーマンショックなど大きな失策を犯し、そしてテロとの戦争が世界に広まり、難民が世界中にあふれた。著者は、こんな時こそ、大局を見据えなければならない。背景にある大きな潮流—「グローバリズムの終焉」とそれに伴う「オールド(旧)・アンチ(反)・ネオ(新)・グローバリズム」を見据えてさえいれば理解できたと。日本の高度経済成長時代、「雁行的経済発展論」が経済学者によってとなえられた。途上国が先進国の後を追って段階的に発展するモデルのことである。ところがその雁の群れに一羽、鷺が突っ込んで来たらどうなるか、雁の群れは四散してしまう。中国の対外工作により、日本が長年を費やして育ててきた多くの「親日国」が瞬時にして「親中国」になっている。

しかし、こうしたことは多極化の時代では自然なことであり、中国は日本の友好国との関係を分断してくる。

しかし、これは中国外交の常套手段でもある。中国はあくまでも多極化時代の原則に忠実に戦術を遂行している、ということであると。これからは、世界の動きも注視していくことも、大切だと感じました。

今日は朝倉会員の自己小伝です。楽しみにしております。

【幹事報告】 矢島 栄一 幹事

1. ロータリーの友事務所より「ロータリー手帳」注文について

1冊 600円+(消費税) 事務局まで

2. 飯田ロータリークラブより創立60周年記念誌

3. 例会变更

軽井沢RC	2月20日(月)	定刻受付あり
	3月20日(月)	定刻受付なし
上田RC	2月20日(月)	定刻受付あり
佐久コスモスRC	2月13日(月)	定刻受付あり
	2月20日(月)	定刻受付あり
上田東RC	2月15日(水)	定刻受付あり
	3月29日(水)	定刻受付あり
	4月5日(水)	定刻受付あり

4. 週報

小諸、千曲川、東御RC

・2月12日(日)IM・会員セミナー 上田高砂殿 13:00~しなの鉄道 小諸発 11:35 12:10

切符は各自購入後で精算

【本日の配布物】

週報 1351号

◆出席報告 前田博志 委員長

会員数24名 出席義務者22名 免除者2名

本日 出席 16名

事前 MU 0名 72.73%

前々回(1/24) MU 0名 78.26%

◆ラッキー賞

NO. 3 掛川興太郎 君

◆ニコBOX 美齊津 明 委員

矢島 栄一君	結婚祝、皆勤祝ダブルで有難うございます。今日も季節感あふれるおいしい食事をいただきました。
朝倉 俊次君	これからも感謝していただける料理を作りますので宜しくお願いします。
渡辺 頼雄君	17回皆勤祝頂きました。有難うございました。

前田 博志君	誕生祝、ありがとう！
黒田 説成君	誕生祝、ありがとうございました。誕生日はS13. 2. 26です。
美齊津 明君	おいしいお昼ご飯有難うございます。
掛川興太郎君	ラッキー賞をいただきました。

【本日のプログラム】 「自己小伝」 朝倉 俊次会員



半年ほど前にこの場で自分が事業を起こした経緯や今日に至るまでの主立った出来事を簡単ではありましたがお話をさせて頂きました。

今日は近年および直近での取り組みなどを聞いて頂ければと思います。まず御代田のパン屋ですけど、なぜ始めたのか、そして始めてからどんな事が起きたのかをまとめてみましたのでお聞き下さい。

開店したのは2010年11月で早6年が過ぎました。考え始めたのがその2、3年前で、実際に建築の準備にかかったのがオープン1年程前ですから、ちょうどリーマンショックの後くらいでしたので、銀行さんからも反対されましたし社内でも賛成してくれる人はわずかでした。反対の理由は、時期が悪い・場所が悪い(畑の真ん中で周辺人口が考慮されていない)・過剰投資で回収出来るとは思えない・弁当だけでも手一杯なので止めてくれ、等でした。

それでも自分としては何かあの場所に惹かれるものがあり、最悪の時期ならあとは上がるだけなどと考え実行に移しました。では、なぜパン屋を始めようとしたのか。一番は将来に対する不安でした。今は違いますが当時20年以上もやっているのに弁当事業の将来に夢を持てなかったのです。周りの同業者でも子息に継承出来ず廃業していくところが多く自分の子供が嫌がるのに他人が勤めてくれるわけがない、そんな事も考えていました。

それでも意地みたいなものもありまして給食会社はどう進化すれば良いのかをずっと考えた中でパン屋というものを思いつきました。日本人の主食としてご飯とパンと麺がございます。当然ご飯は扱っていましたがなんとかパンと麺を弁当や給食に取り入れられないか、しかも自社内で作る事、内製化させる事を考えました。それがパン屋を始める動機でしたが問題はここからです。経験も知識も何も無い中でただ職人さんを集めて「お店を造ったからさあオープンです」。そんな風にコトを進めまして結果としてオープン特需はわずかながらありましたがその後、日に日に売り上げは落ち、職人さん達は喧嘩をして辞めていくような始末で一年も経たないうちに閉店が頭の中をよぎるようになりました。居たたまれなくなり、残ってくれた店長とパートさん全員にどんなことを書いても良いから改善の為の意見書を出して欲しいとお願いしましたところ160位ものものが出てきました。中にはあの人が嫌い、給料上げろ、などもありましたが商品の事や接客の事、掃除の事など概ね7つくらいのカテゴリーに分けることができそれらの改善に取り組みました。士気は高まりましたがすぐに結果が出るわけでもなく月日が空しく過ぎ焦りも感じていた頃です。近くの保育園から園児たちのお仕事体験をさせてもらえないかという申し入れがありまして、しかも40数名になるとのことでした。どうして良いのかわからず逆に先生に何を準備すれば良いのか尋ねたら「子供達の40人なんてほんの少しの場所があれば良いです」と言われ半信半疑でビールケースの上にコンパネ2枚を置きホームセンターで買ってきましたビニールシートを敷いてそこで子供達にパンを作ってもらうことにしました。当日は子供達にも先生にも大変喜んで頂けたのですが私が忘れられないのはパン作りを教えるスタッフの笑顔・たまたまその場に居合わせたお客様の笑顔・誰もが満面の笑顔でそれを見守ってくれていたのです。それまで苦し紛れに色々なことをしていましたがその時に「あ。これだな」と感じるものがありましてその日からお客様の為、笑顔を創る為、この言葉をお念仏のように言い始めました。パンが美味しいとかお店がキレイは当たり前的事として、まずは人なのだ人に、お客様に、いかに喜んで頂けるかどんな小さな事でも良いからそれを積み重ねていこうと思ったからです。時間は掛かりましたがスタッフも次第に変わってくれまして俺の作ったパンではなくお客様の求めるパンを心込めて焼き、心を込めて包む。その気持ちは絶対にお客様に伝わる。お

お客様の求めるものが何かはお客様と会話をしなければ聞けない。そのためにはお客様の名前を憶え要望を丁寧にお聞きする。そのためには、そのためには・・・とやってくれました。結果的にお客様との距離がずいぶん近くなりましてお客様が家で作ったお菓子などを「これ皆で食べて」とお店に持って来て下さるようになったりクリスマスにはスタッフ一同ということでお客様にプレゼントを贈ることが出来たりと笑顔がだんだんと増え、お店が変わっていき、お陰様で売上も伸ばすことが出来ました。しかしそれ以上にこの成功体験で店長を始めスタッフは大きく成長できたと思います。もちろん私自身も本当に良い勉強をさせて頂きました。その後の会社の方向性が、少しずつではありますが見えてきたような時期でした。その時の経験者が今、長野店で店長となり、昨年暮れに軽井沢に出店しました農家レストランの店長となって頑張ってくれています。両店ともお客様の為に自分たちに何が出来るのかを考える店が基本で笑顔を創れる仕掛けをたくさん作っていきたいと思っています。会社の中の一部ですけれどそんな動きが出てきましたらそれが徐々に全体に広まって弁当や幼稚園給食でも自分たちが出来る笑顔創りって何だろうと考え始めるようになりまして、この1月1日付で食べ物の「食」と職業の「職」を並べて『食(職)に通じて笑顔の創出』その言葉を会社の理念と決めました。大きな事は出来ませんがコツコツと一人でも多くの笑顔を創る事、それなら自分達でも出来ると思いますし、そうした積み重ねが将来の大きな夢に繋がられるものになってくれればと願っています。社員全員が同じベクトルで・・・が理想なのでしょうがまだまだそこには至っておりません。それどころか目の前に問題が山積されています。しかもパン屋を始める時に考えた給食の進化とは別な方向に向かっているかもしれません。しかしお客様の喜び(笑顔)を自分のやり甲斐と感じてくれる人が大勢いることがわかりましたので出来るだけ早く皆がやり甲斐の持てる会社にしていかねばと思っています。

次に、軽井沢のお店の宣伝をさせてください。最近こそ発地市庭がで少し注目されております軽井沢の発地に作りしました。上発地と下発地のちょうど中間くらいの里山の風情が残る場所です。店の名前は、御厨 MIKURIYA としました。客席 60、駐車場 25 台。店舗としては中規模ですが敷地面積は 2500 坪ほどあります。軒先を流れる小川の水が池に注がれ、その周りに田んぼや畑を造る予定で造成致しました。まだ建物が出来ただけで目指すところの趣には至っておりませんがその季節が来れば手を入れるつもりでいます。昭和の農家の再現をコンセプトにした“懐かしさ”を感じて頂けるお店ですのでゴルフのお帰りの際などは是非お立ち寄り頂ければと思います。

そして、ここ音羽の事となります。申し上げるまでもなく本当に長きに渡り小諸の人達に愛され、支えられてきたお店でございます。無責任な事を言うようで大変申し訳ございませんが、こここのところはとても厳しいご意見が多々寄せられる状態となっております。時には皆様方にもご迷惑をお掛けしたことがあったかと思っております。それにも係わらずこうしてご利用を賜りまして心より感謝致しております。その御恩に報いる為にも、一日も早く信頼に足るお店となるよう、誠心誠意努力を重ねて参ります。

最後に、自己小伝ということで何を話せば良いのかと悩み色々下書きをしているうちにつくづく思ったことです。弁当もパン屋もそしてこの店、音羽も地域の皆様に支えられて今日があるのだと。これからは、ロータリーの皆様と共に少しでも地域社会に貢献出来ればと思いますので今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

次週のプログラム:2月21日 「平和と紛争予防/紛争解決月間」

矢島 栄一 会員

次々週のプログラム:2月28日 「自己小伝」 山口 洋一 会員